

# 子供達を対象とした「動物ふれあい教室」及び「体験学習」

長野県動物愛護センター 松沢淑美

## 1 はじめに

当施設では、平成12年4月開設以来、動物への優しい気持ちを育み、正しい飼い方を学んでもらうことを目的に、幼児から高校生までも対象にそれぞれの年齢に応じた「動物ふれあい教室」を実施している。また、中学校の「職場体験学習」の受け入れや、いわゆる「不登校」と言われる児童・生徒の受け入れを実施し、良い結果を得たのでそれらの事業について報告する。

## 2 実施期間及び対象

1) 実施期間 平成12年4月～平成14年8月

2) 対象

- (1) 動物ふれあい教室：就園前の幼児と母親・保育園・幼稚園・小学校低学年等（育児サークル遠足、総合学習、社会見学、飼育相談等）115回延べ10、330人
- (2) 体験学習：小学校高学年・中学校・高校(サマースクール、職場体験等)62回延べ424人
- (3) 不登校児童生徒を対象とした教室：小・中学校 41回延べ63人

## 3 実施方法

- (1) 動物ふれあい教室：対象年齢に応じて楽しく分かりやすく学んでもらうことを目的に実施した。内容は動物の正しい接し方、動物による事故を未然に防止する方法等について、パネルやぬいぐるみ、実際の動物を使って説明後、施設内の動物とのふれあいを体験してもらった。
- (2) 体験学習：施設内で飼養している動物達の世話を体験することにより、動物に対する正しい知識を学び、さらに当施設の事業内容を理解し、人と動物の共生と命の大切さについて考える一助としてもらった。評価はアンケート調査により行った。
- (3) 不登校児童生徒を対象とした教室：対象者の家族、必要に応じ学校或いはカウンセラーと連携を取りながら、個々の対象者に応じたきめ細かな対応をすることを心がけた。

## 4 結果

- (1) 「動物ふれあい教室」については、対象年齢別に内容を検討し実施したところ、毎年授業の一環として訪れる学校もあり、大変好評を得た。総合学習の授業、学校飼育動物の飼育相談としての位置付けも定着してきた。
- (2) 「体験学習」については、アンケート調査結果から、動物に対する考え方が変わった、認識が高まったとの回答が100%であった。
- (3) 不登校児童生徒については、動物を介してそれぞれ新たな転機がみられた。再登校を始めた児童、高校に進学した生徒、強迫的行動の改善が見られた事例などがあつた。

## 5 考察及びまとめ

「動物ふれあい教室」では、それぞれの年齢の理解度に応じて実施することは非常に有効であった。

「体験学習」では、犬や猫に関して社会が抱える問題、そして自分たちに何ができるのかを考える機会となり、命の大切さを学ぶ生きた授業となった。

「不登校児童生徒」については、自分が必要とされているという実感を持つことができ、自己肯定感が得られたと考えられた。また動物が介在することにより、人と人との関係が築きやすかったと考えられた。

「不登校」に関わる取り組みの意義は大きく、社会的要求も更に高まると考えられることから、今後は教育機関、医療機関等とのネットワークづくりを行い、お互いに連携をとりながら本事業を実施していく必要があると考える。

当施設で実施しているこれら事業は、これからの社会を担う子供達に、人と動物のより良い関係について学んでもらう絶好の機会であり、今後より効果が上がるよう研鑽を重ね、事業の充実を図っていききたい。